

## 魚沼コシ主力に業務用米・非主食用米に取り組む 生産数量目標の配分を説明



▲農業者、行政、集荷業者が一体となった、生産目標に沿った米生産を呼び掛ける谷口協議会長

2月17日(日)、小千谷市と小千谷市農業再生協議会は、平成31年産米生産数量目標配分の農家組合長会議を開きました。農家組合長や行政、JA役員ら約220人が参加しました。

昨年から、国による生産数量目標の配分に頼らず、農業者(産地)の主體的な判断により需要に応じた生産・販売が行われることとなりました。

今年も、新たな米政策が始まり2年目です。

平成31年以降の取り組みについては、主食用コシヒカリについては、一定の需要は確保されているものの、生産数量を増加させた場合の価格維持は非常に困難な状況で、実需者からは現状と同程度の生産数量および安定した品質(高品質)の確保が求められています。

一方、コシヒカリ以外の主食用米品種については、中食・外食向け業務用米として需要が拡大しております。

また、非主食用米等については産

地交付金にかかる取り組み要件が年々追加されていることから、制度によっては容易に取り組みできない状況となっております。

このような背景から昨年6月に開いた小千谷市農業再生協議会通常総会において、31年産以降については、主食用米コシヒカリの生産を基軸としながらも、実需者からの確実な需要を把握したうえで、需要に沿った多様な主食用米の生産と実効性のある生産調整をすすめることにより、農業生産の拡大と農業所得の確保を図ることとしました。

谷口熊一協議会長は「販売先確保や相応の価格、ブランドの価値を高めるためには、全体の需給の安定が必要だ。まず我々農業者が、より需給安定への意識を持つことが重要だ」と強調し、「小千谷では魚沼産コシヒカリを主力としながら、中食・外食等もターゲットとした業務用米並びに非主食用米への取り組みにより、価格の維持等に結び付けなければならぬ」と話しました。

**小千谷市の生産数量目標は、10,214 tです。**

○小千谷市の平成31年産米基準単収は、541kg/10aです。

## 自慢の米粉料理 試食ワンコイン

2月8日(金)、JA女性部こめっこレディースは、地域での米粉料理の普及拡大を目的に、ワンコイン試食会を開きました。昨年に続く7回目の取り組みです。会場はグリーンパークで、地域住民や女性部ら約50



▲参加者に米粉料理の魅力を伝えるこめっこレディース

人が参加しました。試食会は、気軽に米粉料理を楽しんでもらおうと参加費は500円。

代表の中村一美さんは「一緒に活動できるメンバーを募集している。米粉を使ったおいしい料理を広めていこう」と呼び掛けました。

メンバーが各テーブルを回りながら献立を紹介し、「米粉の天ぷら」「ぎんなんご飯」「粕(かす)汁」「ヨーグルトババロア」を披露しました。

参加者は「米粉を使った天ぷらは、サクサクしていておいしかった。自宅でも試してみたい」と、米粉の魅力に共感していました。

## 健康情報ひろば

### メタボリックシンドローム

JA新潟厚生連  
小千谷総合病院

健康センター 磯部 洋一

皆さま、メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)を知っていますか?耳なじみのある言葉の方も多いと思います。このメタボリックシンドロームは生活習慣が大きく影響します。そして、メタボの状態から発生しやすい生活習慣病は、脳卒中や心臓病、腎臓病などの重症化をまねきます。例えば、糖尿病が重症化すると網膜症で目が見えづらくなったり、腎臓の機能が低下して、人工透析が必要となったりしてしまいます。

しかし、メタボの状態を改善すれば予防は可能です。長い年月の中で、知らず知らずのうち体の中のいろいろな部分が衰えていきます。急に病気になる時、治療していくには体の負担や、心の不安、経済的なお金の負担も大きくなってしまうのです。そのため、忍び寄る病気や、自分では自覚できない症状を見逃さないように、定期的に健康診断を受けていただくことをお勧めします。

まずはご自身の健康状態を把握していただくことが必要です。肥満、喫煙、アルコールの過剰摂取、運動不足など生活習慣に関する改善は簡単ではありませんが、保健師による保健指導、受診後のアフターケアまで地域の皆様の健康づくりをサポートいたします。

### 人間ドックのオプション検査

昨年からは、オプション検査に『脳ドック』を始めました。頭部のMRI(磁気共鳴断層撮影)・MRA(磁気共鳴血管撮影)検査をし専門医の診察、結果説明を受けていただきます。脳梗塞や脳腫瘍の早期発見、太い血管が詰まったり細くなったりにしてないか、血管の状態を調べます。たいへん時間のかかる検査になりますので、定員は1日1名となります。検査をご希望される場合は、人間ドックの案内が届きましたらお早めにお申し込みいただきますようお願いいたします。

また4月からは『眼圧検査』を始めます。眼球に空気を吹きつけ、その反射から眼球の圧力(眼圧)を測定し、緑内障の判断をします。

健康状態の維持とさらなる充実を図る為、オプション検査をご用意しております。さらに充実した検査をご希望される方は、お気軽にご相談ください。